

テレワーク端末の管理に悩んでいる方へ

NetAttestの証明書を利用して クラウドサービスの認証を制御する



テレワークが限定的なものから、日常的なものへと大きく変化した2020年、ビデオ会議アプリを始めとした企業のクラウドサービスの採用も急増しました。

McAfee社のレポート※1によると、2020年1月～4月期における企業のクラウドサービス利用の増加に合わせ、非管理デバイスでのクラウド利用は倍増しています。

一度、非管理デバイスに業務データが保存されると企業側ではいっさい監視することができなくなるため、情報漏洩インシデントのリスクが一気に高まります。テレワーク環境を狙ったサイバー攻撃は今後もますます増加すると予測されており、非管理デバイスによるクラウド利用の防止対策は急務といえる状況です。

POINT

- テレワーク環境を狙った攻撃は今後も増加傾向
- 非管理デバイスに保存された機密情報はインシデント要因に
- クラウドサービスを標的とした外部攻撃者の脅威も増加、国内SaaSへの不正アクセスも発生している



※1 クラウドの採用とリスクに関するレポート - 在宅勤務編

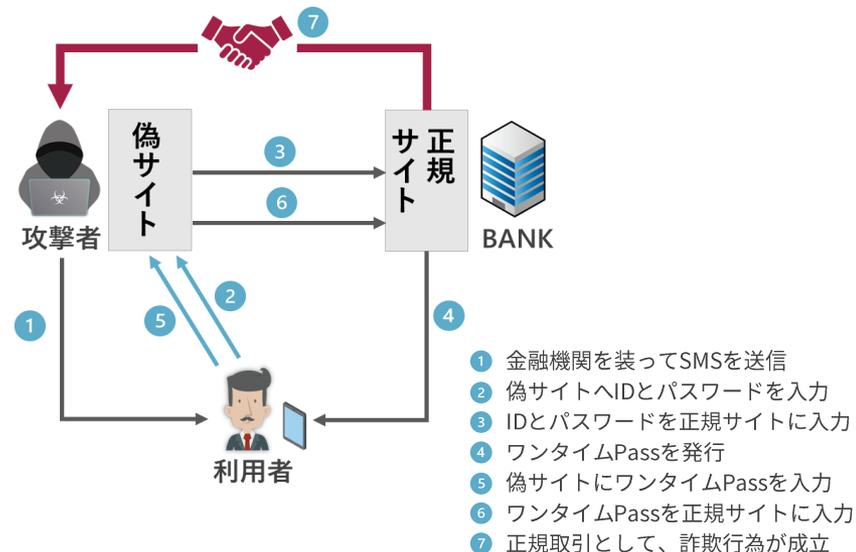
SMS認証・ワンタイムパスワードの弱点！？

ワンタイムパスワードやSMS認証は、社員のスマホでも利用することができ、手早く認証強化を図ることができます。しかし昨今、これらの弱点をついたフィッシング攻撃の被害が増加しています。

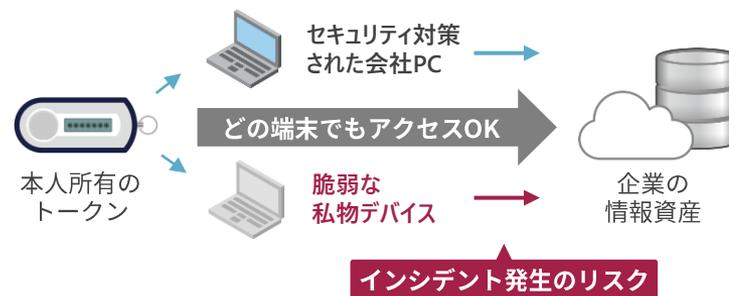
また、ワンタイムパスワードやSMS認証は利用者本人の確認の手段であり、利用端末を特定することができない点にも注意が必要です。

テレワーク端末からの情報漏洩を防止するために仮想デスクトップを採用していたとしても、kintoneやboxなどのクラウドサービスに会社が許可していない私物デバイスが直接つながってしまった場合は、セキュリティ対策の効果は半減してしまいます。

フィッシングによる認証情報の詐取



利用端末の特定ができない



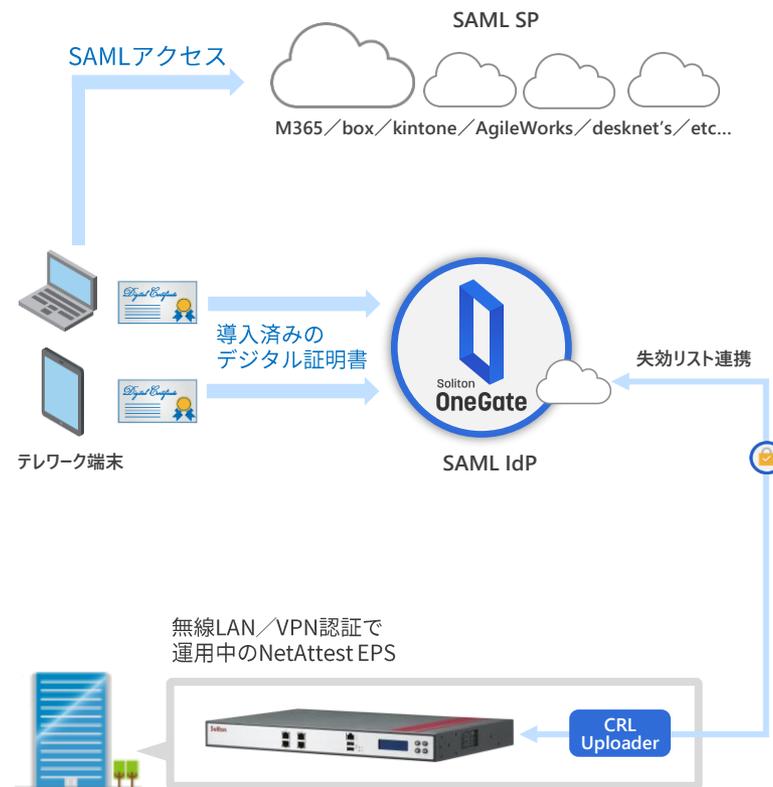
デジタル証明書でクラウドサービス利用を制御する

Microsoft 365 や G Suite をはじめとする企業向けクラウドサービスの多くは、SAMLフェデレーションをサポートしています。SAML認証機関（IDプロバイダー＝IdP）にすべての認証を一任することができるため、個々のクラウドサービス側で認証情報を管理する必要はなくなります。

ソリトンが提供するIdPサービス「Soliton OneGate」なら既存で運用している **NetAttest EPS の証明書をクラウドの認証に利用することもでき**、会社が許可した端末だけがクラウド利用できる環境を手早く・簡単に導入できます。

OneGateはクラウドサービス型で提供されているため、テレワーカーは社内ネットワークに接続する必要はありません。境界型セキュリティに頼らず、情報資産への不正アクセスを防止することができます。

会社が許可した端末だけがつながる



連携は簡単、信頼する認証局を指定するだけ

SaaSとのSAML連携設定はアプリカタログから選んで設定

利用者情報はAD連携を標準サポート



利用者管理 ▾ クラウド設定 ▾ AD設定 ▾ 証明書管理 ▾ アプライアンス管理 ▾ 同期スケジュール設定 ▾ システム設定 ▾ ログ管理 ▾ ≡ presales ▾

システム設定 > 信頼する認証局設定

クライアント証明書認証の為にCA証明書を設定してください。
ネットワーク設定で設定していないIPアドレスからアクセスする際は、クライアント証明書が必要となります。
CA証明書を設定しない場合、ネットワーク設定に設定されているIPアドレスの範囲以外からのアクセスは不可能となります。
CA設定を変更した場合、OneGateクラウドサービスおよび、アプライアンスに設定をすぐに反映します。
認証サービスが一時的に停止しますのでご注意ください。

登録

削除

すべて ▾

検索キーワードを入力して下さい。



すべて選択 | 表示順序 発行者(降順) ▾

前へ | 1 - 2 / 2 | 25, 50, 100 | 次へ

<input type="checkbox"/>	AOI SYSTEMS ca.aoi-systems.jp	失効証明書数: 1 有効期限: 2019/12/02 18:39:44 - 2029/11/29 18:39:44
<input type="checkbox"/>	AOI SYSTEMS US ca.aoi-systems.us	失効証明書数: 37 有効期限: 2020/03/09 19:07:23 - 2030/03/07 19:12:23

最初 前へ 1 次へ 最後

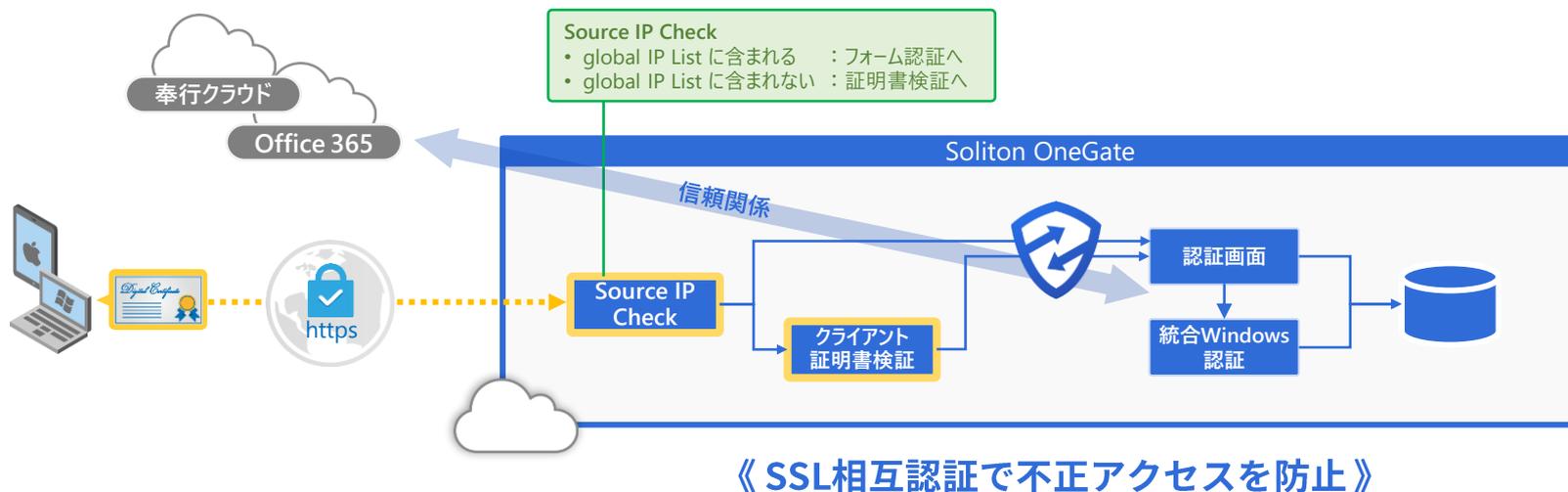
「信頼する認証局の登録」で社内設置のEPS機のCA証明書と失効リストファイルを設定するだけ。
EPS機の設定や運用を変更する必要はありません。



デジタル証明書の優位性、社内だけでなくクラウド情報資産の保護にも

デジタル証明書を用いた公開鍵暗号方式は、利用端末が特定できる上、フィッシングによる認証情報詐取を防止できるというメリットがあります。また、攻撃対象領域の極小化という観点でも、他の認証方式と比べ高い優位性があります。

証明書を利用してクライアントとサーバーを相互認証するこの方式では、暗号化通信を確立する際にクライアント証明書をチェックすることになるため、正規の証明書がなければ通信が確立できません。つまり、他の多要素認証とは異なり正規のクライアント証明書を持たない攻撃者はログイン画面にたどり着くこともできないため、ブルートフォース攻撃対策になるだけでなく、脆弱性攻撃の成立も困難なものとなります。





株式会社 ソリトンシステムズ <https://www.soliton.co.jp/>

〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-4-3

TEL 03-5360-3811 netsales@soliton.co.jp

大阪営業所 06-7167-8881

名古屋営業所 052-217-9091

札幌営業所 011-242-6111

福岡営業所 092-263-0400

東北営業所 022-716-0766

記載の会社名及び製品名は、各社の商標または登録商標です。

Copyright © Soliton Systems K.K. All rights reserved.

2021年 3月

